

三河アララギ

2020年 6月 水無月 みなづき

六 月 号

第 六 十 七 卷 第 六 号



ニューヨーク日記(164) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

SOCIAL DISTANCING

Blue Shoe Diaries



新型コロナウィルスのため、世界中が自粛中です。ここ、ニューヨークは特に状態がよくないみたいなのでアパートから出てません（お買い物は全てオンラインでショッピング）だからとても安全でのどかな毎日を過ごしています。そんな中インターネットによると自分でパンを焼くのがブーム中らしい。イーストが買えなくなるくらいブームです。私もその中の一人になりました！イーストはなぜかあったからパン作りに挑戦。いつもはパン系は失敗が多いのにもかかわらずとりあえず成功？今日から特技にパン焼きを追加！

Novel Coronavirus has the whole world social distancing. It's truly surreal times. I'm in New York where it's ground zero of the pandemic in the US so I haven't left the apartment, I get the news from the internet. In order not to obsess about how bad things are, I browse the web for light-hearted fun stuff also. And the internet seems to be inspiring a lot of people to bake bread during this time. So much so that now there is a shortage of yeast! But somehow I had some yeast in the pantry so before I knew it, I was baking bread too. In the past, I've had more fails than successes when baking anything with yeast. But the famous no-knead bread recipe worked! Here you go, I think I'm a baker now.

アカンサスの徑

御津磯夫

石佛は動きたまはず山かげにおくれ竹の子掘るは嫗ぞ

雨ふらぬ曇も暑くなりきつつ細江田圃はまだ植ゑぬ道

宇宙人の死よりもはやく日本の億のいのちにかかはるを言へ

平等の享受をはばむ固き根を焼きぼろぼさむ天の火もかも

健康保険など無き世よりしたがひ来て醫は仁なりといまもわが言ふ

凍結といふあいまいの語をつかひ回避の方に傾きゆくか

海の上の象かたちなき雲の夕茜また茂吉文明先生をおもふ

伸びゆきて非時ときじくの花黄なるとき夏に衰へておのれかなしむ

ふくらみて反りたる蓄いきほへりこの夜更けには咲かむといひぬ

中庭の一本雅わかきメタセコイヤ生きゐるよすがと幾日を経たる

ははきくち

大須賀寿恵

胸椎を病む吾を残して課員みなソフトボールの試合にゆきぬ

何故に口を利かぬを知りたくてカナリヤが卵をうみしを話してみる
電車にのればすぐ眠るくせつきぬ勤め初めて十八年となる

この職場君さりゆかば吾もまた従ひ行かむと心にきめたり

街灯に吾が影うつる駅前広場早番の日のいたく耳冷ゆ

研究記要書かむと原稿用紙ひろげしに今宵も子等の吾にまつわる

訪ね来しが留守故はかなく帰るよとわれの机にきみのメモあり

ペンを持つ指ごごゆれば霜よけを今朝とりて来し浜木綿思ふ

たどたととタイプ打つ吾の後にて副長は立ちて煙喫ひをり

年度内の仕事はすべて終りたり姿三四郎買って帰らむ

歌集 「續々草々」

今泉米子

劍橋はじめて渡り御所宮を志しゆく夕日あまねし
つるぎばし

川上に落差の光る冬の日の音羽川わたる劍橋の上を

ゆきかへる車の轟きに乱れまた集ふる鮎の群見つ

御幸ありしあとをとどめて階細く格子やさしき御津の御所宮

ゆりかもめ浮き並びつつ移りつつ音羽川辺にそよぐ枯れ葦

幾ところ支流の合ひて音羽川の川幅広らに海にそそげり

ゆるぎなき引馬野の碑に立ち寄りぬ棘ある草の実靴下につく

ていねいに洗ひし貝殻並べあり洗面台に忘れゆきたり

みちのくはまたさまざまと床の間に茂吉生家の額皿を置く

白々と幹苔むせる松の鉢位置さへ変へず五十年あまり

ははぎくち

河原静誠

立ちさわぐ心おさへて峯山の巖に去年は月を仰ぎし

合掌の姿ぞ和合と説きつつも今日の勤めに心乱るる

野菊の花供へつつ思ふ奥伝をたまはりし日の過去の茶会を

梢高く木守の柿の熟れたるに群雀あてさわぐ雨の日

かへりゆく園児見送る夕風に大漁をしらす部落放送

師の君は去年みまかりてお手植の北谷の柿赤く熟れ居り

御仏は独生独死とのたまふを口に誦しつつ吾父母を恋ふ

木枯の吹きこす水漬田の道寒く猫待つ家にわが帰りゆく

園庭に乱れし紙屑を焼きはらふ煙は白く雲にまじりゆく

この寺を営む保母とわがなりて骨までも浄くあれと励まむ

その日の日

蒲郡 岡本八千代

われにあるその日この日も暮れてゆく心配ごともたづそのままに

雨降らば傘さして聞くその音よわれありて聞く今年の春雨

新型のコロナウイルスのまっただ中未だ命あるわがありがたさ

「赤光」を読みてゐたらば少しくは男心の茂吉知ること

「赤光」より拾ひしことばの美しさ「砂にふる雨」かなしきさざれ石」

内裏様官女三人の五体雖小さき小さき豆雛様終しまふ

日に三・四回わが熱計りて平熱に計器にまでも有難うを言ふ

わが小さき顔いっばいの白マスクかけて語らう人ひとりもなく

何かしら夢も私欲も無くなりしごとくにその日来たりて去りゆく

一年間の北馬場ばんばの班長の役了へて自づと何かと心楽しゑ

十人の班の人々みな優し了へれば了へしに少こしさびし

東海の三県もつひに外出も自肅となりて家にこもるわれ

慎つつみなく寂しき心のままに歩む夕雲の下の海への道を

生きてあらばはや次々と仕事ありなどか少こしく焦せるごとくに

蒲郡の小さき文学館へもゆきてみたしなどか心の急せく急くとして

草刈機

豊川 弓谷 久子

花見にと子に誘はれて久びさに町を歩みぬ人影も見ず

境内に只一本の桜の木いま満開の花見上げ佇つ

馴染み深き染井吉野の大樹なり思い出さまざま心をよぎる

我が身にあと幾度の花ならむとうたひし歌会よ最後の歌会

杖を手に暫し桜を見上げ佇つ今年の花見はこれでおしまい

ゆつくりと歩みて帰る年毎の花見の思い出子と語りつつ

敷毛布子が替えられてぬくぬくと午睡楽しまむ寒の戻り日

耐える事のみ
の戦中憶ひをり
コロナのニュース
一日聞きつつ

不安のみつ
のるニュースを
アニメにとチャ
ンネルかえる土
曜日の宵

孫と見し頃
より土曜日午後
六時我が番組
は名探偵コナン

草刈機の音響
き来るたんぽぽ
の花咲き敷ける
小さき原より

姫女苑もすか
んぽもすべて刈
られをり刈り伏
せられてしおれ
てゐたり

庭土を均して
コキアの種を蒔
く育て色づく秋
想ひつつ

新品種のチュ
ーリップの花咲
き出しぬアイス
クリームと名付
けられをり

人も来ず逢う
人も無しこもり
ゐてコロナ騒ぎ
のうづきも過ぎ
ぬ

『今』

東京 今泉 由利

漢字以前「神代文字」のありしとぞ日本の国を知りてかゆかむ

これからを五十億年の太陽よひととき私の命と関はり

トクトクトクわが心音を確かめて重ねかゆかむ生きゐることを

自らに築きし結界ここよりかコロナウイルス入り来るなかれ

太陽をいで一直線に來たりたり小さき日溜り日向ぼっこ

はるかなる太陽よりの日溜りよこの熱もちてコロナ焼くべし

命がけ牛糞ころがす虫もいて其れ其れのこと其れ其れにあれ

過去に浸り^{ひた}未来を思ふこれからを確かめにつつ生きゆかむとす

微なるまま無形となりて大人しく新型コロナの過ぎゆくを待つ

帰り来し私の小庭の雛罌粟の花びらひとつ散りたるを知る

変えられぬ過去はそのまま過去にして造り続けむ新しき過去

ポストまで行く用事のやつと出来自粛籠るる家をいでゆく

目に見えぬものと戦ふつもりにてただただただに虚しさばかり

頼るといふこと知らざりき群れもせず慣れゆくこともただ下手のまま

地球より居なくなる日のあることを教えてくれたコロナウイルス

清く正しく

豊川 安藤 和代

世界中コロナで暗き日びなれど弥生七日の月の清しさ

母の名は「きよ」父「正」の娘であれば清く正しく生んと思う

コロナゆえ帰省しないとメールくる孫は大学四年目の春

冬の向日葵咲かせし志げさん偲びつつ弥生の庭に向日葵を蒔く

天国で花に囲まれ志げさんは上野坂など歌詠みいるや

おはようの雀に合せて自己流の体操頑張る一二三四

庭の草右から抜けば左伸びこの月も草に遊ばれている

コロナゆえ落ち込む心横におき歌詠みおれば心明るむ

しらすの中に小さき海老が混りいて夕餉の卓は賑やかさ増す

休校に朝も夕も兎等の声聞こえぬ空に鴉鳴きゆく

窓を打つ雨音聞きつ眠る夜は父母恋しまるまりて寝る

枝垂れ柳

春日井 清澤 範子

新型コロナ日ごと世界に広がりぬ暦は刻々過ぎて行くなり

マスクかけ日々の買物スーパーへ娘の車にシルバーカー乗せ

新聞にマスクの型紙載りあるをすぐ切り取りて私用のマスクを

布を裁ちしつかりマスクを作るなりまず吾が家族三人分を

いくら寒く暑くありても予報士の伝ふ日の出日の入り暦は進む

椿咲き小鳥の声の賑やかにわが家の春は訪れにけり

廊下に寄りて幾度も観る庭椿低気圧通りて花花散らす風

ガラス戸に額をつけて庭のなか椿の赤き膨らみ見つむ

公園の枝垂れ柳のその枝の細き先にも春のぬくもり

俄か雨降りこし音に目覚めたり今日も元気に最善尽そう

まだまだ続く

大阪 伊藤 忠 男

誰一人見守る人のなきままに寂しく去るか六十と三

人は皆消えて亡くなるいつの日か今日か明日かの違いあるのみ

服装を整えWEBカメラ前今日も始まる在宅勤務

我なればあれをこうすることはそやはり遠きやりリモートワーク

朝起きてぶらぶら歩く熊野道行き交う人の無きが穏やか

ウグイスのさえずり聞くか里の道ここにはコロナ影形無し

若葉揺れ青葉に白葉裏表代わる代わるに見え隠れする

コロナると言っでごろごろ孫たちの避難する先わが家なりけり

お互いに敏感なりやこの時期の待合室に声一つなし

雨は止み朝は必ず来ると言う夢と希望を捨てること無し

水星

東京 矢崎直人

大き目が大き目がいる災害を戦^{いくさ}を見詰め歴史見詰めた

浮かぶ月中野の空を雲一つ無き空横にゆるり飛行機

水星を目指して「みお」の遠き旅どうかご無事でスイングバイを

月曜の朝から冷たき雨が降り坂の上から水の流れる

ホバリングヘリコプターの空の下ガス検針のここやかしこで

鳩の首ミドリムラサキ動くたび虹の襟巻き巻いてるみたい

雨音の叩くりズムの心地良さ計算の生む規則ざわめき

星光るスカイツリーに登って古^{いにしえ}の川春の夕暮れ

本を見て探して歩く楽しさを思い出してる会社の帰り

ゆかし名の住宅街の坂道に江戸時代にはどんな暮らしが

整然と置かれた本の並んでる棚は物言う目礼返す

自 肅

東京 森岡陽子

ガラガラの電車に乗りて母見舞うコロナの為に自肅の中を

川岸に桜しべ降る自肅時今年はゆっくり花見は出来ず

満開もコロナコロナと酒席なく静かに静かに桜はなやか

桜散る羅漢並びぬ段々に御顔重なる志村けんさん

人の世にコロナ暴れし春愁い桜散り行き筏にと流る

名刹の櫓も根方馬酔木咲き地蔵の足元黄水仙香る

紅いの可憐に咲き初む花水木時は過ぎ行く桜は葉桜

参道のつつじの間間に芍薬は一気に開く紅の花

一枝に三つ四つの花の咲く賑び過ぎし寂しき残花

友人と運動不足と散歩行くマスクを掛けるお喋りは離れ

花見

豊川 白井 信昭

ウイルスは靴の底にもつきながら三密の空間伝わりゆくらむ
心して手の消毒うがいマスクがけ我にとりては唯一無二の策

養魚場道を隔てて駐車場コロナ渦からか車来たらず

昨夜降りし雨のなごりを光らせて雪柳萌ゆ白き花盛り

夕暮れの一時間余り田原なる蔵王山めざす息子帰るまで

養魚場ま近にも鮎の季きたり大型冷蔵車駐車ぬける

桜恋い相楽の林道麓より巡り巡れる静けさのなか

林道のなだりに傾く一本の山桜花今を盛りと

春という春をコロナにさらわれて町の祭礼は悉く中止

隣家のソメイヨシノは満開に居ながらにして川辺のわが家

声出して

蒲郡 杉浦恵美子

赤き莖すつくと伸びたヤブガラシ去年は我が庭無惨に荒らしぬ

夫の居ぬコロナ禍騒ぎの世の中はひとり暮しが一際身に沁む

外出をせねば誰とも話せないせめて本でも音読してみん

声出して本読み居りぬ聞く人は誰も居ないがコロナ禍の昼

十年も過ぎてしまへばこの書類最早解らぬ何ゆゑ保管

繰り返す外出自粛の有線放送聞きつつ庭の草取りしてゐる

人間ドックの申し込みさへ不要不急今こそ解る基本の暮し

フェイちゃんはパリより早く逃れしがノルマンデイには醤油もないとぞ

我が母がこの世に居らば看護師ぞ医療の危機の報道切実

我が庭は立浪草が盛りなりコロナ禍の中淡きむらさき

知的忍耐

横浜 阿部 淑子

桜花に代りてつつじはなみずきウイルスよそに花は健やか

都知事よりステイホームの要請に知的忍耐問われる脳質

ひと仕事しては手洗い消毒は自他の命を守らんが為

「元気なの？声聞きたくて。」と電話鳴る互いの話に熱気いや増す

日一日と仕事の能率下がれども知恵をしぼればカバーは十分

親切や楽しき発想進めればオキシトシン湧き生甲斐となる

細やかな娘の世話で入浴し恵比須顔して夫は出でくる

夕日さす決めた歩数を黙々と行く手に小雀群れて鳴き飛ぶ

人も来たらず

豊川 山口千恵子

セーターの小さき穴をつくろひぬ目立たず出来たりうまく出来たり

カサカサと楠の落葉踏みながら封書一通出しにポストへ

休耕の田に青々ともありあがり吹きくる風に光る麦の畝

うぐいすの鳴き声今朝も聞こえる一度も姿見しことのなし

風もなく曇りて静かなひるさがり小鳥も鳴かず人も来たらず

露幾本草の中より切りとりぬ丸葉瑞々淡きみどり色

祝ふといふ気持ちはなけれどわが誕生日赤飯たきぬその夕餉

もつれつつ黄色の蝶のとびるしがいつの間にか見えなくなりぬ

君子蘭今年は花の咲かざりき緑こき葉をさはりてみたり

木下陰に射干の花の咲きにけり淡紫にさびしげな花

春の楽しみ

豊川 夏目勝弘

裏庭のノゲシがいかに育つのかと春の来るのを楽しみてゐき

庭なかのノゲシのロゼット見しときに食べられそうだとふと思ひたりき

ロゼットなすノゲシの厚き葉の緑にホウレンソウが浮かびきし

風によりノゲシの種子は運ばれる我が狭庭の新入り雑草

天ぷらにおひたしそして油炒め食べられるとあり未だ食はず

未だまだ地上に出でぬ竹の子をひたすら探して竹林を歩む

足裏に幽かに堅さを感じたり土を除けば竹の子の穂先

斜光なす朝の光が土なかの竹の子の在り処を示してくれる

コロナ菌を気にしなくもよい運動と一人竹林にて竹の子を掘る

コロナ菌が見えぬゆゑに怯えもしまた安心もあり性の寂しも

『いーはとぶ』

西浦公民館 いーはとぶ

十一年使ひこしこの洗濯機孫らのTシャツ洗ひしことはも
豊橋にも置かれるらしき「駅ピアノ」聴きに行きたし弾きてもみたし

鈴木美耶子

奪ひあふわが膝の中幼二人はだのふれ合ひまだうれしさう
苔の翠庭一面に広がりてコロナウイルス騒ぎの真中

吉見幸子

休診か待合室はうす暗く玄関ドアの中国語案内
長年のコーヒー豆の炒り変はる濃くの加減の定まらぬまま

牧原正枝

はるいろの色鉛筆が箱の中すみれの花は春の花いろ
茜色残して西に日の沈む淡き三日月後を追ひたり

石田文子

うるう年に亡くなりし父初めての真の命日けふのうるう日
ぼんやりと弥生のけふをすごし居り急に中止のいーはとぶ歌会

森厚子

この狭き庭にも春の芽吹きあり子らにまとわせたき温かな風
いつまでと定められなき子らの日日霧深きなか歩むがごとし

山崎 俊子

伯母様の形見のバイブル開きたり赤き傍線の幾重もあるを

三田 美奈子

伯母様の家は漁船の船主で「お日待^{ひまち}」とかに呼ばれてゆきなき

猖獗^{しょうけつ}つて書けるかどうか気になりてコロナの怖さころりと忘れ

水野 絹子

虹を見た東の冬空夕まぐれ地上の不安ぞ知らぬがごと

わが畑の土手に咲きたる水仙の黄や白摘みて墓前に供へり

牧原 規恵

再びの滝見に険しき山道へわが体力の衰へを知る

あれこれと中止になりたるわが暮らし鬱々過す一日の長し

稲吉 友江

春風を背に受け歩く草の道いぬのふぐりの儚き青色

現代学生百人一首

東洋大学

異常気象猛暑と豪雨で人々の希望と生気を吸い取ってゆく

慶応義塾普通部一年（神奈川県）

山口瑛やまぐち あきら

AIは美味しい食べ物分かっててもその美味しさを知ることはない

慶応義塾普通部二年（神奈川県）

藤田眺伶ふじ た ことし れい

よく来たねみんなが集い祖母の笑みいつも変わらぬ座布団模様

中央大学附属横浜高等学校二年（神奈川県）

新庄佑二郎しんじょう ゆうじ ろう

伝えたい言葉はいつもスタンプでどこかに消えた私の言葉

桐蔭学園高等学校一年（神奈川県）

功刀菜柚く ぬぎ な う

駆けぬける君の横顔眺めつつ「ファイト」とさけぶ届きますように

横浜市立岩井原中学校二年（神奈川県）

田邊聖良

涼しげなホトトギス鳴く切通し今なほ残る先人の知恵

横浜市立金沢中学校二年（神奈川県）

西田純平

四六時中ささいなことで怒られる中三ぼくより母反抗期

横浜市立金沢中学校三年（神奈川県）

水野航

除雪車の仕事を終えた祖父の靴まだ濡れている登校する朝

東京学館新潟高等学校一年（新潟県）

五十嵐翔亜

贈呈誌

森岡陽子

秋楡 107号

○樹皮落とし赤みさしたる幹に差す光はすでに春のものなり

三原香代

○どんぐりを投げあい笑いこけし秋君去りし日につづきいくとは

杉山千里

○土筆採る隣りに芽を出す露の臺休むことなく春は巡れり

高木啓子

○真白なる花の日ごとに汚れゆく椿の細枝ますます撓う

木村郁子

○爽やかな目覚めの因を捜しみる日の照る畑で土起こしいて

中村かずえ

冬雷 5月号

○ひむがしの遠き梢のその向かうつつと伸びゆく細き一筋

嶋田正之

○薄氷わづかに残る沼の中ハンノキ林も春待つ葉の芽

山口 嵩

○あからひくあしたの光のみならず太陽入りくる窓となりきつ

佐藤 靖子

○葉を落とす冬の雑木の山々は透けていづこの国までも見ゆ

井上 菅子

○廃れたる梅は冬枯れの時期越えてひとえの白がほつほつ咲き初む

田中 祐子

○春立ちて農道あゆむ人の増えコロナ不安をひと休みする

岩 淵 綾子

○台風に折られた梅の老木の幼き枝に蕾ふくらむ

永 光 徳子

○松の木にとどまりてゐるけさの雲うごかぬままに電車が来たり

内 垣 米子

○春の雨落ちそで落ちぬ水滴が楓の色づく枝先潤す

西 村 邦子

○盛岡の南部片富士白無垢の打掛けまとふ花嫁のやう

津 田 美知子

心錦の 山岡鉄舟

高橋育郎 作詞

下駄はびつこで 着物はぼろで
心錦の 山岡鉄舟 (こころにしきの)

ぼろ鉄呼ばわり鉄舟さん
貧乏暮らしにや負けないぞ
同志集めて剣術を
お寺に通つて禅修行
書には精進 あいつとめ
人生道場 まっしぐら
極め尽くせる武士の道

最後の將軍 慶喜は
大政奉還果たせども
京より攻め来る官軍を
押し止めなくて何となろう
幕府の命を受けてたるは
山岡鉄舟その人ぞ
しかと心底 収めたる
命を賭けて鉄舟は

静岡の地まで馳せ参じ
官軍の将 西郷に
堂々談判 渡り合う
徒手空拳の 男気に
西郷隆盛 感服し
江戸の戦火を中止せり

《静岡談判 義の武士道》

慶喜公 備前お預け断じてならぬ
もし島津公 この立場にありせば何とする
西郷黙然 然りて了となし
屹と計らう ご安心召せ
正義の道理と勇義の鉄舟
ああ武士道の極み ここにあり》

明治維新の 世は明けて
功績上げし 鉄舟は
富士の裾野に茶畑を
東京市中に福を撒く
若き天皇 教育し
刻苦勉励 実を結び
天晴れ日本を輝かす

(注) 《》の部分は朗読、冒頭の二行は明治の東京でうたわれていたわらべうたです。

『俳句』

ひじき煮る漸く母の味となる

重野善恵

銀杏芽吹くちゃんと千鳥の形して

忘れ雪白花隠してしまひけり

雪やなぎ石床ゆれる水の影

田中清秀

花冷えの一枚羽織る青き空

時を告ぐ鐘の音聞ゆ遅ざくら

人を滅す人と人とや四月馬鹿

山迫京子

境内の森閑として花万朶

遊歩道試歩の杖止め初音聞く

窓を開く部屋隅々に青麦の風

浜田紀政

点滅の信号浴ぶる花吹雪

ひとりも良いね蒲公英ひとつ道の端

雨音のいつしか消えて春の雪

山元正規

連翹の黄がこんなにも重たさう

休校の広きグラウンド春の昼

雉子鳴く山武杉道旧街道

松本周二

捨て雛昔鯨の漁師町

すみれ草樹下一面のむらさき野

古民家に桜蕊降る手水鉢

森岡陽子

里山に山吹きゆるは花一重

六地藏の並ぶ足もと黄水仙

小さき手の祈りのいくつ花辛夷

植村公女

花連翹こんがらがって風抜けり

立話続いてをりぬつくづくし

志村けん逝くや宴のなき花見

今泉如雲

御影供の祈祷疫病退散と

山朱莢や藩医伊藤家屋敷なる

ささ波の消えゆくところ蘆の角

今泉由利

ひと匙の花山椒咲く朝ご飯

あとさきのありて今散る桜花

川風にペンペン草の花の揺れ

杉浦弘

筍を掘るややさしき竹漏れ日

観音と弘法並ぶ花の山

なほ緑さす酒林首夏の風

堰堤に行きつ戻りつ花筏

木村歩歩

子ら走る土手にまつすぐ八重桜

菜の花や過ぎ行く子らの背丈越え

みすず野にうぐいすの声友の墓

かさね吟行会

「吟行会が中止になったので②」 4月

田中清秀

四月十日に予定したかさね吟行会は、残念ながら三月に続いて中止となった。予定では千葉の袖ヶ浦公園に行くことになっていたがこのような状況下では止むえない。

新型コロナウイルスによる社会情勢を記録すると、すでに四月八日から政府の緊急事態宣言は発令され七道府県に外出自粛方針が打ち出されている。そして、東京オリンピックは来年に延期とされた。また、プロ野球やサッカーリーグの開幕が危ぶまれ、各種競技が無観客での開催などが行われている。さらに四月十七日から緊急事態宣言が全国へと拡大した、終わりの見えないコロナ禍は社会的不安を招いている。この文章が掲載される時（多分六月頃）には昔話となっていることを心から念じている。

日本赤十字社のホームページに新型コロナウイルスの三つの顔という広告が載っていた。ウイルスの第一の顔は、新型ウイルスによる「病氣」で重症化すると肺炎を引き起こすこと、第二は「不安と恐れ」でワクチンや薬

が開発されていないことの心理的な側面、そして第三は「差別」で感染した人に対する憎悪や偏見である。科学的な対応とともに心理的な対応が大切であり、負の連鎖を起さないことが重要であると訴えている。また、政府の「お願い」は三密を極力避けるようにして欲しいと、何度も繰り返しテレビで放映している。こんな事態が起さるのには正に想像外の悪夢のような出来事である。

その昔は大災害や疫病など庶民の苦しみを救うのは神頼みだった。歴史をふり返ると、奈良の大仏さまとして親しまれている東大寺の盧舎那仏座像は当時の救いの神様だった。天平十五年（七百四十三年）に聖武天皇の発願により造営が始まり約九年の歳月をかけて完成している。当時の社会情勢は疫病（天然痘）の大流行に加えて干ばつによる飢餓、さらに大地震が発生して社会不安にさらされていた。何とか国家を安定させたい、との願いから今の金額で四千五百六十七億円という巨費を掛けて大仏は建造されたとも言われている。また、右手を挙げて前に向けた印相は「恐れなくともよい（施背無畏印）」との意味であり、左手を下げて掌を前に向けているのは「願いを叶えます（与願印）」の仕草と言う。苦しむ民衆を救い、悟りの境地に導く大仏の慈悲にすがりたい大衆の願いが結実したのである。

天下人や将軍など歴史に名を残した英雄や大きな功績を成し遂げた政治家・実業家もその多くが神社や仏閣に

参拝し祈願していたようだ。ある哲学者は「人間の成功の最終的なゴールは神の存在に目覚めること」という言葉を残している。吟行で行った神田明神も平将門のたたりで流行した疫病を鎮める為に祀れたと言われ、今でも神田祭は江戸三大祭りとして多くの人が集まり盛大に行われている。他にも京都の八坂神社の祇園祭も平安時代の疫病退散を祈る御霊会が起源とされている。

この際、先人の教えに範を垂れ、厄除祈念と招福祈願に心を込めるのはどうだろうか。大仏様をはじめ神仏の靈験あらたかな神通力に頼るしかないのではないか、そこには科学や学問を超越した何かがきつとあるはず、と思うのは私だけではないだろう。

四月二十三日現在、全国の感染者は累計で一万一千九百人余り、死亡者は二百八十七人と蔓延がまだまだ続いている。



迷い苦しむ民衆を救う大仏さま

『酔いの徒然』（九八）

丸山 酔宵子

『パンデミックとギムレット』

中国武漢発新型コロナウイルスはとうとう全世界に伝播し、世界保健機構（WHO）はパンデミックを宣言した。非常事態のイタリアではベニスがある北部ベネト州が中心。ベニスと言えば、ルキノ・ヴィスコンティ監督の名作『ベニスに死す』を思い出す。

ドイツ人作曲家グスタフは休暇のため一人ベニス・リド島に滞在、ポーランドの美しい女性と息子タジオとの運命の出会いが始まる。グスタフは少年の美しさに魅了されるが、1911年、ベニスではコレラが流行し年老いて体力が衰えていた彼はコレラに感染してしまう。しかし、彼は海辺に立つ美しいタジオの姿を見つめつつ死の恐怖ではなく深い満足感に満たされて死んでいく。名匠ヴィスコンティのベニスを舞台にした華麗且つ官能的な映像は衝撃的でもある。

その僅か7年後。1918年には、突然スペイン風邪が発生し、日本でも39万人、世界全体では5000万人以上、一説には1億人以上の死者を出すという未曾有な被害を世界中にもたらした。

このスペイン風邪は元来、アメリカで発症し、第一次世界大戦に参戦したアメリカ兵が欧州各地で蔓延させた。その時、スペインは中立国であったため不名誉にもその名を付けられてしまったのだそうだ。

今朝のライブニュースでベニスのサンマルコ広場が映し出され、人影のないゴーストタウンと化し、野良犬が寂しそうに石畳を彷徨（さま）よっている。サンマルコ広場の運河前にあるヘミングウェイがこよなく愛した「ハリズバー」の洒落たテラスには冷たい潮風が吹き抜け寂しさを漂わしていることであろう。

世界各国で出入国禁止、外出禁止が発令され、日本もまだまだ予断を許さない状況が続く。いつもは東横線とメトロを乗り継いで日比谷や銀座で打ち合わせや映画、その後は軽く一杯を日課としていたが、流石に自粛。

中国人の爆買い観光客でごった返していた銀座中央通

りもマスクをした日本人ばかり。日比谷の映画街も通常の1〜2割で、前後左右に空席を十分とって、換気のきいた劇場でゆっくり鑑賞。そして行きつけの銀座3丁目 WALK IN BAR MOD、では、まずカウンターに置いてあるアルコールで手を消毒し、おもむろにマスクを外し、「・・・今日はきりツとギムレット・・・。ちょっと早すぎるかな・・・。」

こんな悠長な時期は3月中旬まで。

4月7日政府は新型コロナウイルス感染症対策として東京、神奈川、ちゅば、埼玉、埼玉、大阪、兵庫、福岡を対象とした緊急事態宣言が発令された。「3蜜」を徹底的に避け、感染を防止するための非常事態である。外出禁止、テレワーク、只管「家飲み」早めのギムレットである。

マスク取りギムレットには早すぎて

酔宵子

楽しい時間 91

山本紀久雄

2020年4月30日

神にならなかつた鉄舟・・・その二十一

聖徳記念絵画館の壁画を描いたのは官展系を中心としたメンバーで、奉納者の推薦による画家と、大和絵系統の小堀鞆音や、大正5年に結成された金鈴社のメンバーである素明、松岡英丘、鏑木清方とその関係者が多かった。

ここで気づいたことがある。鏑木清方は壁画『初雁の御歌』を描いたが、以下の二世五姓田芳流の「下絵」と「画題考証図」を完全に無視している。



『初雁の御歌』下絵



『初雁の御歌』画題考証図

清方は皇后を単独の美人画とし、全く「下絵」と「画題考証図」と異なって描いたのである。

皇后のお姿は明治5年に内田九一が撮影した写真に基づくと考えられ、面長で気品ある



『初雁の御歌』壁画

皇后のご容貌が巧みに表現されている。伝統を重んじながらも、非常に近代的な色彩であり、壁画80点中、最も華やかな作品といえる。(参照『明治聖徳記念学会紀要復刊第11号』林洋子氏論文平成6年4月15日)

一方、素明は海舟の刀の置き方が以外は、概ね「画題考証図」に近い構図で描いている。

清方と素明の差は何か。素明も自由に描けたのではないだろうか、という疑問が浮かんだが、奉納者を見てうなずいた。清方の壁画の奉納者は「明治神宮奉賛会」、これは奉納者というより絵画館建設主体の団体であるから、描き方に対する制約条件についてあまり追及されないと推察する。

このように考えると清方は画家としての創造性を発揮できたのではないか。

だが、『江戸開城談判』の奉納者は「侯爵 西郷吉之助・伯爵 勝精」である。二人は慶應4年3月14日における「西郷・勝会见」の当事者の末裔である。二人の強い希望が壁画の構

図に反映したのであると容易に汲み取れる。

では聖徳記念絵画館の「壁画」を描くにあたって、何故に奉納者を必要としたのであろうか。この疑問を紐解くには、聖徳記念絵画館というより明治神宮内苑・外苑の基本構想から紐解かなければならない。

それを明治神宮発行の『代々木』（令和二年新年号）から引用する。

《明治四十五年七月三十日午前零時四十三分、明治天皇崩御。四十五年の長きにわたつた明治が終わり告げた。のちの明治神宮造営に繋がる動きは、この明治終焉の日から既に始まっている。動いたのは洪沢栄一をはじめとする東京の民間有志たち。彼らの願いは、是非東京に明治天皇の御陵をつくりたいということだった。しかし八月一日、陵墓は明治天皇自身の遺志により京都の伏見桃山に内定していることが明らかになり、有志の運動は、明治天皇を祭神とする神社建設にむけて大きく舵を切ることになる。》

八月二十日、東京商業会議所に集う洪沢たちが、満場一致で可決した「覚書」とよばれる案文がある。在京有志が作成した初期の明治神宮計画案だ。曰く、神宮は内苑外苑の地域を定め、内苑は国費で、外苑は国民の献金で造営すべきこと。内外苑がセットになった青写真がこの時点で描かれていることに驚かされる》

このように神宮外苑の聖徳記念絵画館は国民の献金で建築され、壁画も奉納者の献金によって描かれたのであるから、『江戸開城談判』の構図に奉納者の意図が影響を与えた

ことはたやすく想定される。

素明は明治8年（1875）に東京府本所区荒井町で生れている。現在の墨田区本所2丁目あたりである。生家は酒商を営む家で、本名の貞松は勝海舟が命名したと言われている。ちなみに「素明」の号も海舟によるもので、海舟自筆の銘名記が残っているという。

『江戸開城談判』壁画の奉納者は「侯爵 西郷吉之助・伯爵 勝精」で、西郷吉之助は西郷隆盛の嫡男である西郷寅太郎の三男・隆盛の孫にあたる。勝精は、徳川慶喜の十男として生まれ、海舟の嫡子小鹿が早世したため勝家の養子となった。

『江戸開城談判』壁画の画家として素明が選ばれたのは、海舟が命名した経緯から考えて、素明を推薦したのは勝精であると容易に推測できるが、ここは順番に整理して検討していかねばならぬ重要なところである。

『江戸開城談判』壁画の検討順番とは

1 何故に下絵の「江戸開城場面」が選ばれず「薩摩邸の場面」とされたのか。

2 史実は「嘆願」であるのに、壁画題名が「談判」となったのはなぜか。

3 海舟の刀に位置を左側にした理由は何かである。

次号で一つずつ検討説明していきたい。

絹の話 (115)

「アトリエテレビ」今 泉 雅 勝

絹と徐福

徐福とはどんな人

古代中国の春秋戦国時代（紀元前400年～紀元前220年頃）の黄帝の血を引く斉の国（春秋戦国を争った7国のうち、秦の始皇帝に最後に滅ぼされた国。山東半島を中心として、孔子や孟子を輩出し、天文、造船、航海学や星占術、陰陽五行説等に長けた文化国家）の名門の方士（祭祀を司り、医者、占い師を兼ねる人）で、秦の始皇帝が万里の長城や大運河建設などの数々の事業を神に報告する「封禪」（天に対して「封」、地に対して「禪」）の祭祀をする為、蜃気楼が発生する山東半島地方の泰山に滞在した時、始皇帝の不老不死の薬の求めに応じ、それを求めて日本に渡来した人と言われています。

その事は中国の第一級の資料『史記』や『漢書』『後漢書』『三国志』などに記されています。日本では『日本書紀』等、何処にも書かれていませんが、全国30余カ所に徐福伝説があります。

不老不死の薬とは

当時の神仙思想（占い術）によれば、不老不死の薬は東の海の彼方にある島の蓬萊、方丈、瀛洲と云う三神山に住む仙人が持っていると考えられていました。

徐福の大博打

民衆は長い戦乱に疲れきっている上に始皇帝による万里の長城や大運河建設などの過酷な労役に疲労困憊し、次々と朝鮮半島や東の海の向うの島に渡っていました。また、その頃には始皇帝は焚書坑儒などを行なう暴君となりはじめ、各地で民衆一揆が起こり始めていました。徐福が始皇帝に不老不死の薬を取得出来ないか問われた時、「仙人にお会いして、その妙薬を頂くには童男、童女3000人、百工（稲作農耕者、金属技術者、木工、建築技術者、土器製造者）など2000人を献上しなければなりません」と言ったところ、始皇帝はそれを快諾し、国家事業として準備の為の莫大な資金を徐福に与えました。

徐福の大船団は東の海の彼方の蓬萊を目指す

圧政から逃れようとしていた人達は官費で不老長寿の薬のある蓬萊に行けるとあって、応募者は殺到したと思われまます。

山東半島一帯で作られた船は周辺のアちこちの港から

150隻を超える船団となつて中国沿岸を南下し、黒潮のつて蓬萊の国（日本）を目指したのです。

徐福一行は最初に九州各地に着き、離合集散しながら八丈島や本州の南紀、富士、丹後、男鹿、津軽など20余地に分散し行つたようです。徐福は伊万里にも滞在したという言い伝えがあります。

弥生時代の到来

中国は春秋戦国の時代から三国志の時代を経て漢王朝が成立するまで、数百年以上に渡る戦乱と北方民族の膨張による民族移動が活発になつて、日本にも膨大な数の人々が各地に渡つて来ました。戦乱の時代は各国が勝ち抜き為に西方から優れた武器、種子、馬、絹、や加工技術などを取り入れていました。それらの新技術を携えて日本に渡つて来た人々と、縄文先住民との融合が弥生時代を開いてきたと思われまます。

徐福一行は絹技術をもたらしただか

中国の春秋戦国の時代は揚子江方面から伝わつた絹の製法を駆使して各国競つて高度な絹織物と繭の大量生産に凌ぎを削っていました。薄く透ける様で艶やかな高級な織物は権威を示す格好の衣服となり、外交戦略物資として大きな力を発揮していました。残りの絹綿のフェルトは兵にさせて、その防矢性と保温性等の効果で強靱な

兵を擁する事が出来ました。絹は富国強兵の切り札で、重要新産業に発展していました。

徐福の5000人にも及ぶ一行に多くの農民が種子などを携えていて、時代の花形産業の養蚕技術を持参しなわけがありません。これらが絹の日本伝播の北ルートの一翼ではないでしょうか。

その後の徐福

徐福は10年間、九州を振り出しに各地を回りましたが、不老不死の薬を持つ仙人に会う事は出来ませんでした。むしろ徐福にとつては、そのような事はどうでもよく、平穏な理想の国造りに燃えていたのではないのでしょうか。彼が紀元前210年郷里に帰つた時、偶然にも近くに巡幸した始皇帝に会い、「蓬萊山は見つけたが不老不死の薬を入手出来なかつたのは、そこに到る海に大魚が船の進路を妨げているので、この大魚征伐しなければなりません」と言つて、今度は兵を率いて日本に来たのですが、その年、始皇帝が没し、徐福も日本の土になつたと伝えられています。

実は、不老不死の薬は徐福の郷里に有り、「繭を噛む」（高血圧予防などの各種機能性を摂取）事ではなかつたのでしょうか。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2020年5月13日

陽射しを浴びましょう

すっかり日焼けする陽射しになりました

以前も書きましたが

陽射しは免疫力をあげるし

精神的にも良いホルモンが分泌するし

骨にも良いので日焼け予防しながら浴びるようになっています

下む

最近では

顎(アゴ)の痛み

顎のズレからくる噛み合わせがおかしくなり口内を噛む

口内の腫れ

口内炎

目の不調

腰や肩や首の痛み

手の痛みや痺れ

便秘や下痢

吐き気

アレルギーによるの喉の違和感 などなど

この様な症状が多く出ています

座りっぱなしの様な同じ姿勢が続くのも原因の一つです

水分補給をしっかりと(熱中症予防も含む)集中して

いても

小便で席を立ち身体を動かすようになっています

今日も笑いながら行きましょ

2020年5月11日

予防に充分ではありませんね

ゴールデンウィーク明けから急に街に人が増えましたよね

マスクをしてない方やアゴにマスクをかけている方を

多く見かけるようになってきました

人は人なので感情的にならずに

自分は自分で

大切な方達に感染を広めない様に

引き続き予防法を粛々とやって行きましょう！

「先生 他にやっている予防法ありますか？」

という質問を患者さんから受けました

本田のひとり言 に書いたことでもかなり充分ですが

確かに感染予防に充分はありません

そこで

玄関のたたきを掃き掃除をした後に

アルコール消毒をしています

ウイルスは靴が運ぶ

という言葉があるように靴の底にウイルスが付着し

色々な所に運ぶといわれています

靴下のまま玄関のたたきに下りたりすると

靴下の底に付着したウイルスが部屋の歩く場所に広がっ

ていきます

今日も笑って行きましょう

「江上浩二の独り言」 30 江上浩二

楽書…はな菖蒲

三河アララギ会の吟行（令和二年二月）で小石川後楽園をお邪魔した経緯を伺って、ふと自分も十年位前にしようぶの時期に散策し、それをブログに残しておいた事を思い出した。その時の独り言である。

昨年（今年）の今頃、平成二十一年六月七日、小石川後楽園で植物学者の説明員の方から、今真っ盛りの『はな菖蒲』について話を伺う。



いやいや寒い高層ビルに囲まれている



東京ドームもお隣さん

ここは、都会の喧騒の中にあることが、写真からお分かります。

- 1 菖蒲
- 2 はな菖蒲
- 3 かきつばた
- 4 あやめ

小石川後楽園の奥の松原と呼ばれている地域に、これらの季節植物が植えられている。我々は普段、菖蒲やあやめと言って混同しているが、これらの4種類のアマメ科とサトイモ科の花を区別出来る様にフィールドで散策しながら説明をして頂いた。

東側隣には、田端と呼ばれる、小さな田圃も一面つられており、そこにはもち米が育てられ、ちようど田植えが済んで、きれいな緑色の苗が大きくなりかけていた。

近在の小学生が田植えをしたそう。花の説明だけでなく、なぜ、後楽園と呼ばれるのか、梅で有名な水戸の方はなぜ、偕楽園と呼ばれるのか、クイズの話もあった。

菖蒲だけがサトイモ科で、食には供されないが、根には里芋のごとくイモがあるという。他の3つの花はアマメ科である。しかし、普通人はあやめと花菖蒲を混同していて、話を聞いてようやく区別出来るような気持ちになった。見た目も、よく見ると違うそう。菖蒲とはな菖蒲（科目が違う）には細長い葉の中央に太い葉脈があり、かきつばた、あやめにはそれがない。そう言われれば、よく見ると、区別がつく。

菖蒲の花などは、これが花なのかと思うくらい、花らしくなく、数ミリの大きさの、小さなものが細長く密集している長さ5-6センチ程度の実の塊と間違えてしまう。きれいな白や淡い紫の花を持つはな菖蒲は、今の季節、非常に艶やかだ。

あまりにも、紫がかっているので、晴天下では目がち

らちらして、痛くなるそうだ。

それは、花の薬効なのか、単なる光の強さなのか、説明では分からなかった。

花の種類にかかわらず、一般的に寒い季節に咲く花の色は、白、黄色、薄いピンクだそうで、それがだんだん、暖かくなって咲く花の色が、濃くなり、原色になってくるそうだ。気が付かない、柑橘系の木の花は小さく、おとなしく、白色をしている。六月は花菖蒲で、淡い紫、晩夏の彼岸花などは原色の赤にまで上り詰めてしまう。同じ植物でも、原生種は小さく、花も控え目、季節も本来の季節に花が咲く。

改良した園芸種（人がなんだかんだと交配しちゃったものを、園芸種と呼ぶそうだ）は花を咲かせる季節も早くなり、見た目の花は大きくなるが、匂いが無いそうで、虫やハチが寄り付かないそうだ。

園芸種では、がくが、花のようになつたり、雄蕊の一部が花弁のように変わってくるそうだ。

つまり、園芸種は人の手で株分けがされたりして、原生種の植物が本来自然の中で、虫などと共存して生き抜かなければならない環境に比べ、簡単に子孫を残せる人工的な姿になってしまい、受粉に必要な、花の匂い、雄蕊、虫が飛んでくる本来の季節に花を咲かせることが要らなくなってしまうと、鋭い説明で締めくくられた。

おまけに、肥料をやりすぎると、花が咲かずに、図体の茎や葉が大きくなってしまふ話もあった。

視覚的区別の仕方

菖蒲 … サトイモ科 葉の中心に太い葉脈がある
はな菖蒲 … 以下、全てアヤメ科 葉の中心に太い葉脈

がある

かきつばた… 以下、全てアヤメ科
あやめ … 以下、全てアヤメ科

ない
ない

クイズの話の答えは、水戸藩の思想を貫いているようだ。

殿様は、農民などが先に梅や花を楽しんでもらい、後になって自分がそれらを味わい、楽しむという意味で、小石川の地を後楽園と呼び、水戸の地は農民などと皆で一緒に楽しもうという意味で、偕楽園と名付けたそうである。

これだけのものを、途中でメモ書きにも出来ず、ただ解説をお聴きするだけで、家に帰ってから書き出して纏めた。意外と自分の記憶もまだマシと、一年経って思った。伺ったことを編集して自分の言葉で表現すれば、覚えていた事を書きだそうとする無理な行為とは違い、楽に出来るものだと納得。これは、**楽書** と言えよう。

平成二十二年五月二十七日記す



文京シビックセンターも傾く

漢詩研修 (四十四)

千代田岳精会 平井茂行

清明

清明の時節雨紛紛

借問酒家何處有

杜

路上的行人魂斷欲

牧童遙指杏花村

牧

清明時節雨紛紛

借問酒家何處有

路上行人欲斷魂

牧童遙指杏花村

【作者】 杜牧（八〇三―八五三）晩唐の詩人。京兆万年（陝西省長安県）の人。字は牧之。号は樊川。長安の名門階級に生まれる。八二八年、二十五歳で進士に及第、官吏となる。晩唐の繊細な技巧的風潮を排し、平明で豪放な詩を作った。風流詩と詠史、自自諷詠を得意とし、艶麗と剛健の両面を持つ。七言絶句に優れた作品が多い。杜甫の「老杜」に対し「小杜」と呼ばれ、同時代の李商隠と共に「晩唐の李杜」とも称される。李白、韓愈、柳宗元の影響を受けた。

【語釈】 ○清明：二十四節気の一つで、春分から十五日目。陰暦の三月、陽暦の四月五日頃。 ○粉粉：多く盛んなさま。 ○路上行人：路傍の旅人。 ○欲断魂：心が滅入る。もの悲しくなる。 ○借問：借は仮に。試みに問う事。

【通釈】 清明の季節であるのに雨は降りしきっている。雨宿りをしていた一人の旅人は、酒でも飲んで滅入る心を晴らそう思い、通り合わせた牛飼いの少年に、近くに酒屋は無いかと尋ねると、遙かかなた、杏の花咲く村を指さして教えるのであった。

【鑑賞】 杏の花咲く村落の風景が絵の如く浮かぶ、絵画的な叙景詩である。詩の構造は平起こり七言絶句の形であつて、上平声十二文（ぶん）韻の粉と十三元（げん）韻の魂、村の字が通韻として使われている。

『多摩川の桜から深大寺へ』

中屋保之

多摩川土手で桜を愛でたあと、深大寺へ向かった。目的は二〇一十七年九月に国宝に指定された『銅造釈迦如来倚像本像』の拝観、と言いたいところだが、じつは旨い酒と名物の蕎麦を堪能することにある。

七分咲きの花の下をとりとめのない話でゆったりと時が流れてゆく贅沢が心地よい。とある古民家の風を残している蕎麦屋に入った。聞く所によると、この地を訪れる客のために各店が休業日をずらしているのが嬉しい。折角の好天気、庭の露店に腰を据え、いつもの如く酒類はマーちゃん、料理はトッコが手際よく差配してくれる。エイコちゃんと私は領いて贅意を示すだけで良いから楽だ。適量の焼酎とつまみの天ぶらそして目的のひとつ、冷たい蕎麦を平らげ、せせらぎの音を聞きながら深大寺へ歩を進める。ほどなく参道から十数段うえに、「浮岳山」の山号額を掲げている山門が見えてきた。山内で一番古い建物で、江戸時代そうであった茅葺きは、今では旧庫裡と、この山門だけになってしまったそうである。吉祥寺が勤め先だった頃、小学生低学年の子供たちと数回訪れていたはずだが、ゆっくりと見上げたことはなかった。ましてや、この花の季節にあつては人も車も大渋滞であつたと記憶している。

正面の本堂で手を合わせる。ふと横を見ると、残念な知らせが掲示されている。《令和二年四月十八日～五月十七日まで秘仏元三大師像特別開帳行事を予定してりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の情勢から行事を延期させていただきます》との事。更に『銅造釈迦如来倚像本像』との対面も叶わなかった。厄除け、病疫退散をご利益とする元三大師が山門閉鎖によって拝むことが出来ないとは、些か皮肉めいている。

深大寺本堂に向かって左手に「なんじゃもんじゃの木」が季節になると、それはそれは見事な白い花を咲かせるそうである。その名の由来には諸説ある。

- ① 見慣れない物だからナンジャモンジャという愛称を名付けた
- ② 神事等で使われていたので、名前を呼ぶのが憚られたため
- ③ 『何の木だ?』と呼ばれているうちにこの名前になった
- ④ 水戸光圀こと徳川光圀が将軍に『あの木は何か?』と問われ、答えが分からずとっさに『ナンジャモンジャ』と返答した 等々。



正式にはヒトツバタゴ（一つ葉田子）。同じモクセイ科のトネリコ（別名「タゴ」）に似ており、トネリコが複葉であるのに対し、本種は小葉を持たない単葉であることから「一つ葉タゴ」と称するとの事。old-man's beard（＝お爺ちゃんの長い髭）は、洒落しているが、unusually large flowers（＝異常に大きな木）はいただけない。やはり、『ナンジャモンジャ』が良い。東京都新宿区の明治神宮外苑になんじゃもんじゃの木碑と親木が残されている。また、NHK大河ドラマ「麒麟が来る」の主人公明智光秀ゆかりの岐阜県土岐市の市の木に指定されており、県道六十六号線にはヒトツバタゴが植えられているため「なんじゃもんじゃ街道」という愛称が付けられているとの事である。

境内の横手からの小高い山にある深大寺城跡に戦国前期の想いを馳せた後、時節柄、夜の部に若干の未練を残しながら日の高いうちに家路についた。

吟友に贈る

令和二年四月五日十三夜作有り

横山精真

花は庭上に開いて 春闌を送り
はな ていじょう ひら しゅんらん おく

只人の髀肉の嘆を思う有り
ただひと ひにく たん おも あ

同道の良儔 宜しく自愛すべし
どうどう りようちゆう よろ じあい

高吟月下 残寒を払う
こうぎんげつか ざんかん はら

贈吟友

令和二年四月五日十三夜有作

花開庭上送春闌 只有人思脾肉嘆

同道良儔宜自愛 高吟月下拂殘寒

(語釈) ○春蘭・・・春たけなわ。 ○脾肉の嘆・・・中国の三国志(蜀の劉備が馬に乗って戦場に赴く事のない日が続きももの肉が肥え太ったのを歎いた故事から)力量を発揮する機会に恵まれない無念さを言う。(ここではコロナウイルスで自粛を強いられているの意) ○同道・・・同じ道を歩み学んでいる。 ○良儔・・・良い仲間。 ○残寒・・・春になっての寒さ。 余寒。

(通釈) 庭の桜は咲き誇り春爛漫となったが、ただ私は脾肉の嘆の言葉を思っている。

同じ道を歩み学んでいる良き友よ、どうぞご自愛下さい。私は十三夜の月夜に余寒を吹き飛ばし一人高らかに吟じました。

(解説) コロナウイルスで思いも寄らない状況になってきた。四月七日「緊急事態宣言」が発令され、それ以後も警戒態勢は厳しくなっており、終息する見通しが立たない。

三月より集会など自粛を強いられ、私はその始めこれが「毎日が日曜日」と言う事かと思いついた。これでは今後持つかなと心配になった。ご同様の方も多し事かと思われる。

私共は吟の効能をよく人に言っているが、この度は身を以て吟の活動そのものの意味に思い至った。「教養教育が大事」(今日用事があり、今日行くところがある) 正にこれだ。

吟の教場で指導する者も受ける者も頻繁に人と顔を合わせるのが先ずは良かったのだ。「脾肉の嘆」の言葉が頭を過ぎり、この言葉を使って会員を励ますべく詩を作った。

この四月のお月さんはスーパームーンと云う事で十三夜も満月も殊の外くつきりと大きく綺麗に眺められた。自然が一番だ。月を観て一吟、やはり、早く皆と一緒に吟じたいものだ。

仏像彫刻 (五)

「聖観音菩薩」



練習では、像高六寸の像で制作しますが、先生のお許しが出て、私は、八寸の「聖観音菩薩」を制作しました。全高は43センチメートル、身は27センチメートル

ルあります。約半年ほどの期間で制作いたしました。この「聖観音菩薩」は「松久宗琳の仏像彫刻、初級から中級まで」に掲載の図面、写真を拡大し八寸の仏像にいたしました。私は、約三年の年月を費やし、やっと、基礎を卒業できました。

「八十種好」

- 1 無見頂相・・・仏の頂上の肉髻(にくけい)が高く、見上げようとしても愈々高くなって見ることができない。
- 2 鼻高不現孔・・・鼻が高く、孔が正面から見えない。
- 3 眉如初月・・・眉が細く三日月のように。
- 4 耳輪垂れ・・・耳の外輪の部分が長く垂れている。
- 5 身堅実如那羅延・・・身体が筋肉質で、天上の力士のように隆々としている。
- 6 骨際如鉤鎖・・・骨が鎖のように際立っている。
- 7 身一時廻旋如象王・・・身体を廻らすとき象が旋回するようになつてする。

藤崎 徹

- 8 行時足去地四寸而現印文・・・歩くとき足が地面を離れてから足跡が現れる。
- 9 爪如赤銅色・・・爪が赤銅色。
- 10 膝骨堅而円好・・・膝の骨が堅く円い。
- 11 身清潔・・・身体が清潔で汚れない。
- 12 身柔軟・・・身体が柔軟。
- 13 身不曲・・・背筋が伸びて、猫背にならない。
- 14 指円而纖細・・・指が骨ばつていず、細い。
- 15 指文葳蕤・・・指紋が隠れていて見えない。
- 16 脈深不現・・・脈が深いところで打つので、外から見えない。
- 17 踝不現・・・踝が骨ばつていない。
- 18 身潤沢・・・身体が乾いていず光沢がある。
- 19 身自持不透・・・身体がしゃんとして曲がつていない。
- 20 身満足・・・身体に欠けた所がない。
- 21 容儀備足・・・容貌と立ち居振る舞いが美しい。
- 22 容儀満足・・・容貌と立ち居振る舞いに欠点がない。
- 23 住処安無能動者・・・立ち姿が安定していて、動かすことが出来ない。
- 24 威振一切：威嚴があり身振り一つであらゆる者を動かす。
- 25 一切衆生見之而樂・・・誰でも見れば楽しくなる。
- 26 面不長大・・・顔は長くも幅が広くもない。
- 27 正容貌而色不撓・・・容貌が左右対称で歪みがない。
- 28 面具満足・・・顔のすべての部分が満足である。
- 29 唇如頻婆果之色・・・唇が頻婆樹の果実のように赤い。
- 30 言音深遠・・・話すときの声が深く遠くまで届く。
- 31 臍深而円好・・・臍の穴が深く、円くて好ましい。

32 毛石旋・身体中の毛が右に旋回している。
 33 手足満足・手足に欠けた部分がない。
 34 手足如意・手足が意のままに動く。
 35 手文明直・手のひらの印文が明快で真っ直ぐ。
 36 手文長・手のひらの印文が長い。
 37 手文不斷・手のひらの印文が途切れていない。
 38 一切悪心之衆生見者相悦・どんな悪者も見れば和やかになる。
 39 面広而特好・顔は広々として好ましい。
 40 面淨満如月・顔は満月のように淨らか。
 41 隨衆生之意和悦与語・衆生の意のままに和やかに共に語る。
 42 自毛孔出香氣・毛孔より香氣が出る。
 43 自口出無上香・口より無上の香氣が出る。
 44 儀容如師子・立ち居振る舞いの威嚴あること師子のよう。
 45 進止如象王・歩くことも立ち止まることも象王のよう。
 46 行相如鷲王・歩くときは片足つづつ交互に運び、鷲鳥のよう。
 47 頭如摩陀那果・頭は摩陀那果のよう。
 48 一切之声分具足・声にはあらゆる音が備わっている。
 49 四牙白利・四本の牙が白く鋭い。
 50 舌色赤・舌の色は赤い。
 51 舌薄・舌は薄い。
 52 毛紅色・毛髪の色は紅色。
 53 毛軟淨・毛髪は軟らかく淨らか。
 54 眼広長・眼は広くて長い。
 55 死門之相具・死門の相が具わる。死はこの世からあの世へ行く門、不死の相ではないということ。
 56 手足赤白如蓮華之色・手足の色があるときは赤く、あ

57 るときは白い蓮華のようで濁っていない。
 58 臍不出・出臍ではない。
 59 腹不現・腹は常に隠されている。
 60 細腹・腹は脹れていない。
 61 身不傾動・身体は傾いていなくて、揺ぎない。
 62 身持重・身体に重量感がある。
 63 其身大・身体が大きい。
 64 身長・背が高い。
 65 四手足軟期淨滑沢・手足は柔軟で淨らか、滑らかで光沢がある。
 66 四辺光長一丈・身体から放たれる光は長さが一丈ある。
 67 光照身而行・光は身を照らして遠くに届く。
 68 等視衆生・衆生を等しく視る。
 69 不輕衆生・衆生を軽くみない。
 70 隨衆生之音声不增不減・衆生の音声に随うも、声の大きさが増したり減ったりしない。
 71 説法不著・法を説いても、執著することがない。
 72 隨衆生之語言而説法・衆生の話す言葉の種類に随って、法を説く。
 73 發言応衆声・声を発すれば、衆生を同じ声を出す。
 74 次第以因縁説法・順に因縁を明らかにして説法する。
 75 一切衆生觀相不能尽・誰も相を觀て、明らかにし尽くすことがない。
 76 觀不厭足・觀相しても厭きることがない。
 77 髮長好・毛髪が長く好ましい。
 78 髮不乱・毛髪はまとまって乱れない。
 79 髮旋好・毛髪は好ましく渦巻いている。
 80 髮色如青珠・毛髪の色はサファイアのような青色
 81 手足為有徳之相・手足は力に満ちている。

春の楽しみ

夏 目 勝 弘

雪を見ず、氷も張らず、春となった今年、除草剤の散布を辞め、草を刈ることにしてもう数年が過ぎた。

五センチ余りに刈り込み、今は草丈が定までしか伸びなくなつた。しかし新しい雑草が入つて来る。ま絶える種もある。

その二種がノゲシであり、ノゲシの出芽は九月から五月、花期は四月から十月ころまで、草丈は二メートル余り、種子散布は、風・空地などの裸地ならどこでも生育する。

十二月にはもうロゼット状に、瑞瑞しい厚い葉が、伸びていた。

おひたしにしたらと思つて、調べてみたら、天ぷら・油炒め等で食べられていると。

別名は(乳草)(苦菜)(ちしや)

裏庭に新入りが芽生えた。ノゲシの四株が日に日に大きなり、四月の中旬には一株が二メートル余りに伸びてしまった。

ノゲシの花言葉は、見間違つてはいや、旅人、幼き友、悠久、憎まれた子世にはばかる。追憶の日々。

この数ヶ月毎日見えてきて、花言葉の一つが頷ける。

あと二種の新人は、ハルジオン、出芽は九月から十一月、花期は四月から七月、種子散布は風。

裏庭の隅にある神様のお祠を囲むように、今白い花を咲かせている。

別名、戦争草、貧乏草等々があり、なんとなく我が家に入つてきた。類はは類を以つて集まる。が言えている。

雑草学者ベーカーが「理想的な雑草の特徴」として十二項目をあげている。

① 種子の発芽に必要な条件が複雑である。

② 発芽がバラバラで、種子の寿命が長い。

③ 成長が早く、速やかに花を咲かせる。

④ 生育可能な限り、長期にわたつて種子を生産する。

⑤ 自分だけで種子を残す方法を持つている。

⑥ 特定の昆虫に頼らず花粉を運ぶ。

⑦ 条件が悪いときにも、いくらかの種子を生産することができる。

⑧ 条件の良いときは種子を多産する。

⑨ 種子を遠くへ運ぶ仕組みを持つ。

⑩ 切断されても、強勢な繁殖力と再生力で増えることができる。

⑪ 人間が耕すところより深いところから芽を出すことができる。

⑫ 競争を有利にするための工夫がある。

以上のような能力を持った植物だけが、雑草という名前がもらえる。

あと二つどうしても春一番の楽しみは竹の子を掘ることであり。春此岸の墓参りの帰りにお寺の竹林に行き竹の子を、掘ることである。

○ 皮いく重ふとき筍いま心に水気みつらし手にて思う 藤沢古美

○ ふしごとに白き粉ふきし竹稚し冬あたたかにつやをたもてり

岡 麓

竹の子は白い粉の白帯がある間は竹の子が出る。それは五年余りと、いわれている。

○ 春筍の地下一尺にあらんとす 相生垣爪人

○ 春の筍を掘らんと藪の中歩く 為成蒲園

また地上に出ない竹の子を求めて竹林のなかを歩く、足裏に感ずるときも、また地表のかすかな変化で探す、その楽しみがすき。

○ 波立てて竹むらを吹く春の風光りかがやく竹の葉竹の幹

土屋文明

「氷魚」のことから (233) 岡本八千代

今は、明けても暮れても世界中の人々が新型コロナウイルスに苦しめられている。私もその中の一人である。愛知県蒲郡の海辺の町西浦の古い人は、まだおかげで「家より出てはいけない、人と交際しないように」ということで守られている。やはり、茂吉のこと「赤光」について書き出してゆこうと思う。「赤光」はかなり有名になって、心ある人々に注目され、もてはやされた。「赤光」はよく売れて、第五版も発行したほどであった。

では「赤光」という歌集の名はどこから以って出来たのであろうか？

○第一歌集の「赤光」は明治38年(1905年)24歳(数え年)の時から、大正2年(1913年)32歳まで・歌数は(834首)

○「赤光」の改選版―歌数(760首)にした。

○大正14年に二・三の改作。定本とした。

「赤光」の中の歌に、
・とほき世のかりようびんがわたくし児田螺はぬるきみづ恋ひにけり

・さんらんと光のなかに木伐りつつにんげんの歌うたひけるかも

・ゆう日とほく金にひかれれば群童は眼つむりて斜面をころがりけり

・ひかりつつ天を流るる星あれど悲しきかもわれに向はず

・あまつ日に目陰をすれば乳いろの湛かなしきみづうみの見ゆすべなきか螢をころす手のひらに光つぶれてせんすべはなし

・ひむがしのともしび二つこの宵も相寄らなくてふけわたるかな

というのがあった。(近代日本の文豪より)

最初の歌、「かりようびんが」というのは、「迦陵頻伽」という仏教ことばであって、「極楽浄土にいるという人間の頭をもち、顔は美人のようで、声の美しい想像上の鳥」のこと。「赤光」の題名は茂吉24歳の時とこのことから、現代なら23歳に当たる。茂吉の息子の北杜夫は、その著「青年茂吉」の中で、

「茂吉という男は野武士、野蛮人のごとき野太い神経の持主であるとともに、逆に気弱でほそぼそとした繊細な感覚の持主でもあった。」

とも言っている。もともと茂吉は、正岡子規の短歌とその理論に触発されて歌をつくりはじめたのであったが、時代の流れの中で自分の歌の創作がだんだんと変わってゆくらしくそれは、茂吉独自の抒情性なるものが伊藤左千夫からの直接の影響を受けながら成長していったのかもしれない。アララギは、「馬酔木」「アカネ」などの集団の中で、根岸短歌会のメンバーも変質したり後退したりするものの中で、茂吉は「アララギ」を失なわなかった。むしろ、茂吉はアララギを現代にまで赤光させたと思う。

子規の「写生」の意を茂吉の抒情性が継ぎアララギを今日まで発展させてきたものか。

編集室だより【二〇二〇年四月】

今泉 由利

○いろいろなことを、原点から知りたくなる癖がある。「宇宙」を知りたくなった時は、せつせと「筑波」へ通った。

宇宙の物質のほとんどは、肉眼とか、望遠鏡とかで見える「星とか」ではなく、原子とも違い、光も出さず、何物にも反応しない、宇宙の構造の骨組となる「暗黒物質」で出来ていると、教わった。

○こんなにも巨大な存在が、目にみえないことには、すぐあきらめがついてしまったけれど、今「新型コロナウイルス」という「黴菌」の、目に見えないことには、呑気なことを言うてはいられない。

○役に立てそうなことは、何ひとつ思い浮かばないから、せめて自身が、感染しないように、良かれと思うことは全部して、家に閉じ籠っていることだけで立向かっている。

○アルゼンチンの友人から、「元気にしてますか!」と電話をいただき、地球丸ごと、目に見えない「コロナウイルス」に埋め尽くされていることを実感する。

○経験したことは、身近に思うことが出来る。沢山の経験は、人をやさしく、強くしてくれる。地球中で経験している。このコロナ騒動を、同じ心で乗り切りたい。

○「駅ピアノ」「空港ピアノ」というBSの番組が好きです。いろいろな国の「空港に、駅に、誰が弾いても良いピアノが「ポッシン」と置いてあり、通り掛った人が、いとも無造作に弾きはじめます。楽譜など広げる人はいません。クラ

シックから、自作であったり、ポップスであったり…其れ其れ異なるのだけれど、弾いている人の「喜び」も「哀しみ」も、ほんとうに遠く、テレビを見ているばかりの私にまで伝ってくる。

こんな素敵なコメントを残して。

・お昼ごはんも食べないで練習したんだ!

・努力すれが、何でもなしとげられる!

・自分を表現する言葉だよ。

・即興は、脳を刺激してくれる!

・大きな視野でとらえれば、ものごとが良く見えてくる!

・孤独じゃないよ! って伝えたい。

・失業して、いやしてくれたのはピアノだった。

・常に新しいことが学べるんだ、と91才の人。

・小さい時、祖母から教わった。

・弾き終ると満足出来るのだよ。

・小さなことでは悩まない。

・毎晩、妻と子供の前でピアノを弾く。

○詩吟のクラスで「暗譜」を、と教わるこの意味がわかったような気がする。

詩も譜も、読むということでは、表現しきれない。詩の内容と心とを理解しようとし、自身の経験した心を添えて…全身で取り組まなければ。自分から迸ってしまうまで、練習をしなれば。しつかり自分を参加させなければ、面白くないと知る。

○三河アララギ・六月号より、新しく「木村歩歩」氏。「俳句」にてご参加下さいます。

古人、先人、同時代人…何びとにも追従することなく、ご自身の思う存分を發揮されますよう。

野菜・果物・まんだら (28) ショウガ 生姜 ジンジャー ショウガ科・ショウガ属・Zingiber officinale



- 熱帯アジア原産。多年草。インドから中国を經由して、弥生時代の日本に伝わったと推定。
- インドでは、紀元前300-500年には、保存食、医薬品として使われ、中国では、紀元前に、食用にされていた。日本では、奈良時代には栽培がはじまっていた。
- 高さ60cmほど、地中に多肉質の根茎ができ、披針形の先の尖った葉が互生する。日本の気候では、温室栽培以外花は咲かない。根茎による栄養繁殖をする。
- 根茎は、辛味成分・ギンゲロール、ジンゲロン、精油・ジンギベレン、ジンギベロール、香り成分・シオネール、シトラール。
- 栄養分として、カリウム、亜鉛、銅、マグネシウム、食物繊維などを含む。
- カツオやアジなどの青魚に寄生する緑虫アニサキスに対する殺虫成分がある。
- 辛味成分のギンゲロールは、消化酵素の働きをよくなり、発汗を促す。食欲不振には、生姜をすりおろして、お湯を注いで飲む。解熱にも、咳にも、効果的。
- 発散作用、健胃作用、鎮吐作用、胃腸の冷えに、癌予防効果のある食材ともされている。
- 食用のショウガは、収穫時期によって分けられる。根ショウガの掘りたてのものを「新ショウガ」、霜がおりる直前11月~12月まで畑においたものを「ひねショウガ」。根茎を掘り採り、生のまま乾燥させたものを生姜(しょうきょう)といい。皮を除き、石灰をまぶして天日で乾燥させたものを乾生姜(かんんしょうきょう)という。
- 初夏の柔らかい若い根茎を、甘酢に漬けたり、味噌をつけて生食するのが清々しく、「あ!夏がきた」。関東では「谷中ショウガ」といって特別な感慨で迎える。
- 朝の「生姜紅茶」にはじまって、夜の「搾り生姜湯」まで、一日中生姜尽しです。
- 伊勢や出雲の生姜糖。大好きです。

第三十八回子規顕彰全国短歌大会

〔応募要領〕

雑詠2首1組（未発表作品に限る）、何組でも可。規定の応募用紙は子規記念博物館のホームページからダウンロードできます。郵便番号、住所、氏名、雅号、電話番号を楷書で明記し、氏名、雅号には必ずふりがなを付けてください。

作品募集

〔応募料〕

1,500円（2首1組）郵便小為替か現金書留

締め切り

令和2年7月31日（金）※必着

〔応募先〕

〒790-0857 松山市道後公園1-30
子規記念博物館内 子規顕彰全国短歌大会 係
電話089-9315566 <http://sishaku.jp/>

〔選者〕

秋葉四郎 坂井修一 中川佐和子 吉川宏志 片上雅仁
※順不同・敬略

〔賞と発表〕

文部科学大臣賞・愛媛県知事賞・松山市長賞・松山市教育長賞
後援賞／現代歌人協会子規記念賞・日本歌人クラブ賞

短歌研究社賞・短歌『編集部賞』現代短歌社賞
選者賞／各選者特選3首・入選15首（計90賞）

〔入賞歌集〕

応募者全員に送付いたします。（12月下旬予定）
※大会当日に発表し表彰いたします。

〔表彰式日時〕

令和2年10月25日（日）午前10時より

〔会場〕

松山市立子規記念博物館 4階講堂

〔記念講演〕

講師／坂井修一氏（現代歌人協会副理事長・「かりん」編集人）
演題／「子規の楽しさ」

※新型コロナウイルス感染症の影響により表彰式を中止することがあります。表彰式が中止の場合も入賞発表は行いますので、ふろっこ応募ください。

〔主催〕

松山市教育委員会

文化庁 愛媛県 現代歌人協会 日本歌人クラブ 松山歌人会

短歌研究社 角川『短歌』 現代短歌社 朝日新聞社 読売新聞社
毎日新聞松山支局 愛媛新聞社 N日本松山拠点放送局 南海放送
テレビ愛媛 あいテレビ 愛媛朝日テレビ FM愛媛 愛媛CAV

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒114-0022

東京都北区王子本町一・二六・六・A

TEL (03) 五九二四・二〇六五

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail yurimaiizumi@jcom.zaq.ne.jp

◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇会員・今まで会員の方。希望される方。

◇会費制 廃止。

◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千円。

◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九

◇原稿送付先 〒114-0022

東京都北区王子本町一・二六・六・A

今泉由利 宛

◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。